



Title	二字の漢語における連濁・半濁音化について(二〇一二年度卒業論文要旨集)
Author(s)	桜井, 渉
Citation	札幌国語研究, 18: 76-76
Issue Date	2013
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7601
Rights	

二字の漢語における連濁・半濁音化について

国語学第二研究室 九四三八 桜井 涉

本研究は、二字の漢語において、撥音に後接する漢字のハ行音が連濁や半濁音化する要因、またはハ行音のままである要因は何なのかを明らかにすることを目的とした。

『日本国語大辞典』に記載がある二字の漢語は、後接する漢字によって、ハ行音、バ行音、パ行音のどの音に変化するのかについて偏りが発生していた。そこで、撥音に後接する漢字によって、後接する漢字の字音には変化しやすい音があるのではないだろうかと推測した。また、対象の漢語を他の様々な辞書と比較して考察したところ、時代による読み方の違いがみられる。そして、時代の変遷とともに、音が変化していると考えられる漢語を考察していくと、その変化には様々な形式があると考えた。バ行音からパ行音へと変化していく漢語が最も多かったが、それ以外の変化もみられた。

本研究では、二字の漢語における連濁、半濁音化の規則性について明確な結論を出すことはできなかった。しかし、様々な辞書の比較により、撥音に後接する漢字の字音の読み方が変化することと、時代の変遷は密接に結びついていると判断できた。